

面識のない生徒同士による意見交換会の試み

—— リーダーシップおよび相互コミュニケーション 能力の育成に向けて ——

荻原 万紀子

はじめに

本校に事務局を置く^{注1}女子教育研究会は、活動の一端として、昨年までの3年間、生徒による意見交換会を行ってきた。4～5校の会員教師が適当と思われる^{注2}テーマを設定し、生徒会やHR委員会代表または関心の高い生徒を募り、1校2名の生徒（大概2年生）が意見交換を行う、という形をとってきている。会場は本校として司会も本校生徒が務めているが、事後の感想を読むと、福島や静岡から来てくれる生徒（および先生方）も含めて、いずれも「楽しかった」「またやりたい」等の満足を表明してくれている。事前準備をする教師たちも、初対面の生徒がうち解けやすい雰囲気作りを工夫するほか、より充実した意見交換会にするべく、同研究会が実施している生徒アンケート調査を前もって生徒たちに分析させたり、講師を招いたり、等の試みを実施してきた。

一方、本研究会および本校は、現代における女子校の価値の一つにリーダーシップの育成が挙げられるものと考えて、その指導方法について議論してきた経緯がある。リーダーシップ育成のためのプラン作りに取り組む必要も感じており、本校研究プロジェクト「ジェンダー」の活動下に、私は、同窓生である^{注3}樋口恵子氏に相談をした。樋口氏のご教示の中に「生徒自身に企画・運営をさせる」ということがあり、これを意見交換会で試みたいと考えた。

また、本学の^{注4}「音声言語学習会」では、相互交流能力の育成を重点目標として研究と実践に取り組んでいる。研究活動は通常、音声言語教育交流セミナー以外は本学および附属の中で行われ、他校生徒との意見交換会は初めての試みとなる。

今年度の実施

4月の女子教育研究会で、今年度の試みについて提案し、承認を得た。今年度の参加校は、会津若松ザベリオ学園・共立女子・静岡県西遠女子学園および本校の4校で、2年生生徒各2名、本校から別に司会1名を出すこととなった。また、実施日は、本校の文化祭当日を含めて複数候補があがった。

これまで意見交換会については、菊池美千世教諭と私が、授業その他を通して関心のありそうな生徒に声をかけて実施してきた（その中でたまたま自治会執行部の生徒が務めたことがある）。ただ今回は、

リーダーシップ育成を目的の一つとしているので、執行部の生徒に機会を与えるのが適当かもしれないと考え、指導部担当の石井朋子教諭に相談し、まず執行部生徒に意向を尋ねることにした。執行部生徒たちは、ぜひやりたい、せっかくやるならほかの人にも見てほしいので、文化祭の執行部企画としてやりたい、という反応だった。ただ、文化祭当日は他の仕事や活動にあたる生徒もあり、結局生徒1名は1年生が務めることになった。

日にちを文化祭2日目の9月17日と決め、執行部長（以後、部長）が当日の司会と事前の準備にあたることとした。まず、私から各校担当教員に概略を伝えた後、部長から挨拶と自己紹介を兼ねたメールを送った。その後、各校の担当生徒がメールを部長に送り、生徒たちが相談を進めていくようになったが、この段階ですでに6月になっていた。その後も話はなかなか進展せず、結局テーマが決まった時には夏休みも終わり近くになっていた。生徒側は、「別学・共学」について長所と短所を考えたいが、ディベートもしたい、という希望のようであったため、私が^{註5}「ディベカッション」を提案した。前半はディベートをし、ただし勝敗を決めず、そこでの内容を踏まえて、後半は長所と短所について全体的なディスカッションにするという形を説明すると、部長はたいそう喜び、意見交換のし方はこのディベカッションと決まった。ただ、ディベートのためには事前準備が必要なので、各校でアンケートをしたほうがよいとか、共学校や男子校からも参加者を招いたほうがよいとかいう考えが部長自身にもあったのだが、その後の動きが遅すぎて実現できなかった（本校ではかろうじてアンケートを作ったが、配布したのが文化祭直前準備期間になってしまったため回収率が低すぎてデータとして使えなかった）。たまたま朝日新聞声欄に載った投書（資料1）を私がコピーしておいたものを、直前に各校にFaxして資料として使っていただくようにした（Faxしたのは部長である）。

9月に入って、部長と相談して時程を決め、部長が参加校へのご案内を作った（資料2）。また、ディベートの一般的な方法については教科書のコピーを、今回の方法については私のメモを部長がまとめたプリント（資料3）を、これも事前にFaxさせた。当日は文化祭のお客様へのご案内プリントを配ることとし、これは部長が作成した（資料4）。また、当日の準備と片付けは執行部生徒が、ディベカッションの記録2名は部長の友人が務めるよう、部長が手はずを決めて進行させた。参加生徒と教員、来客のための記録および感想の記入用紙は私が作成し（資料5）回収した。尤も教員・来客の提出はわずかである。

今回意見交換会の目的と評価方法について

目 的

1. 面識のない生徒同士が意見交換を通して相互交流を深める。
2. 意見交換会を行うことにより、コミュニケーション能力・相互交流能力を高める。
3. 意見交換をするために、事前調査や学習をする。
4. 自分たちで意見交換会のテーマ設定や方法を検討することにより、リーダーシップを育成する。

方 法

1. 代表生徒（自治会・生徒会・HR委員会等代表）がメールにより事前の相談をする。
2. 生徒たちが、テーマと意見交換のし方（話し合いの方法）を決める。
3. テーマに沿っての事前調査（アンケート、資料集め等）は、各自で行う。
4. 教師は適宜指導をする。

評 価

1. 相互交流を深めることができたか。
2. コミュニケーション能力・相互交流能力を高めることができたか。
3. 事前調査や学習が効果的にできたか。
4. リーダーシップを育成することができたか。

評価方法

1. ディベート・ディスカッションの意見
2. 生徒および来客の感想
3. 教員による反省、感想（研究会）

注⁶ ディベートおよびディスカッションの記録（ディベート講評を含む）

ディベート

① 立 論

* 肯定側

- +別学と共学でカリキュラム的に変わらない。
- +社会に出た後、異性となじめない。
- +男子校の校風に魅力を感じた女子や、女子校に魅力を感じた男子が別学であることによって入ることができないというように、選択が狭まってしまう。すなわち権利の平等に反する。

* 否定側

- +異性に押しつぶされることなく個性を伸ばせる。
- +恋する時間がないために、心を乱されずに勉強や部活動に打ち込める。
- +男子に偏りがちなリーダー役を女子が務めることにより、リーダーシップを育てることができる（女性の社会進出につながる）。

② 反対尋問

否定→肯定

- +男子が嫌いで女子校に入る子もいる。そういう子はどうすればいいのか。

答：職場は男性もいるので社会に出るとそういう子は困るのではないか。男子が嫌いという理由で女子校に入るのは人生からの逃げとも言える。

+「カリキュラム的に～」というのがよくわからない。

答：昔は裁縫や作法等の女子校特有のカリキュラムがあったが、今はそういうことはない。別学だと甘えが出るのではないか。

肯定→否定

+共学だとお洒落の時間とか部活に使えるとあったが、異性に見られることで女性らしさに磨きがかかるのではないか。

答：共学は異性を気にしすぎることになる。恋に使う時間を学生本分の勉強等に向けるべきだ。

+異性に押しつぶされることなく個性が伸ばせるというのが、異性との交流がないと人間関係が狭まってむしろ個性が磨けなくなるのではないか。

答：女同士だからこそ、思っていることをお互いにはっきり言い合えて、お互いを成長させることができる。

+女子校でのリーダーシップはあくまで女子校でのもので、男性もいる社会では通用しないのではないか。

答：まず同性だけの環境でリーダーシップを取ることで、女性にも自信がつき、後でも生かせるのではないか。

③ 最終弁論

* 否定側

+現在の社会では、女性の力を高めていくことができる別学は大切である。

+同性の中にいることによって個性も伸ばせ、お互いの絆も生まれる。

+別学の中で作られたリーダーシップや適応力は、社会に出ても役に立つ。

* 肯定側

+社会に踏み出す準備段階である学校で男女が別であるというのはおかしい。

+共学でなければ、男子のことはわからない。

+女子校だからこそリーダーシップが養えるというのでは、女性は、男性を排除しないと力が発揮できないということになってしまい、女性が弱いものであることを肯定することになる。

ディベート講評

肯定側に対して

- ・ちゃんと意見とか根拠が考えられていたのでとても説得力があった。
- ・一つ一つの意見に力があってすばらしかった。
- ・「社会を学ぶ」って観点でいくと共学の方が良いかもしれない。
- ・最終弁論がよくまとめられていて説得力があった。(以上生徒)
- ・反対尋問がうまくいっていた。

- ・「社会に適応するため」という大きな柱を中心に論を組み立てていて論にあまりブレがなかったが、それ以外にも何かもう一つあれば良かった。

否定側に対して

- ・質問にもちゃんと答えることができたのでなんとかよかった。
- ・質問への「女同士だから互いに成長できる」というのが説得力があって良かった。
- ・女性の中で学べることも多いのでやはり必要なのではないかと思う。
- ・いまいち意見がまとめられていなかった。(以上生徒)
- ・別学出身の女性リーダーの例などを出せるとよかった。
- ・テーマ的にも、少し難しかったのか、論旨が弱かった。もう少し自分たちに有利(別学の利点)な方へ話をもっていければ良かった。

ディスカッション(アルファベットは学校の別を表し、数字の①は、ディベート時肯定側生徒、②は否定側生徒を表す)

司会：今までの話で言い足りなかったことをどうぞ。

A①：同性の中でリーダーシップが取れるのはある程度気楽なので異性の中で個性、自分を出すことが大切なのだと思う。

司会：恋のことが議論になっていたが、別学だと本当に恋をしない分の時間を勉強に割けているのか。

B②：勉強だけではなくて自分の趣味などにも時間を使える。

A②：関係ないと思う。

A①：むしろ別学の方が気にしているのではないか。

C①：人によって違うと思う。だから別学も共学も両方あっていいと思う。

(口々に：) どちらでも恋が勉強の妨げになるというのは言い訳にすぎない。

A①：恋はあとですればよい。

A②：でも恋はする。要は、恋を勉強の糧にする、というようにプラスに転じられればよい。結局個人の問題。

司会：この問題のまとめとしては、恋は別学・共学関係ないということになる。では、リーダーシップについて。女子校で今培われているリーダーシップは、将来、男性もいる社会でも通用すると思うか。

A①：本校には大きな学校行事が五つあり、その都度リーダーが変わる。その間、役割が固定化する。いつもついてくるだけの人もいる。女子校にいるからと言ってリーダーシップが身につくとは言えない。

A②：自分から言おうとしない子には、こちらから働きかけて時間をかけて待つ。

C①：自分は共学の中学で大きな部の部長で、今は生徒会長だ。共学も別学も関係ない。しかし、今や

っていることは社会に出ても生かせると思う。

A①：社会で通用するかわからないから、自信を持っていくしかない。自分がどれだけできるかわからないから、試されるというの乗り越えるべき壁だと思う。

B①：今女性のリーダーが少ないのは、女の下につくのがいやだという人が多いからではないか。そういう意識を変えることが必要だ。

司会：自分は、共学だった小学校と比べて、今、しきりやすくなった。前よりリーダーシップがついたと思う。

B②：共学の中学時代、やりにくいと思ったことはないが、今から思うと、自分を出せず意見を言いにくかった面はある。

A①：小学生は子どもなので、いろいろなことを言い合う。中学ぐらいになると違ってくるのだろうか。

A②：中学になってからの方がまとめにくかった。

司会：先生方で、別学と共学両方教えられた方は？

* 男女とも素直な面が出るのは別学(本音が出やすい)。一緒にいると男子がかっこづけをしたがる。また、男子を叱るとその子の彼女ににらまれる。

* 男子校・女子校・共学いずれも経験し、共学が自然と感じた。だからこそ共学校が多い。しかし、男子校のよさ、女子校のよさ、それぞれあるのだから、別学はいけないという議論はあるべきではない。選択の多様性があってよい。

* 実際に授業をやっていて、力を取られるのは、男子の方。だから、女子にとっては、女子校の方が教育サービスが高いと言える。

司会：では最後に1人ずつ自分の意見を。自分は、共学は自然だが別学のいいところもあってよいと思う。ただ、世間が狭まるという短所はある。

A①：女子校の長所は、守られた環境で伸び伸び過ごせて自分が出せるところ。しかし、その中で凝り固まってしまうのが欠点。やはり、両方あって選択できるのがよい。

C①：きょうはいろいろな面を知ることができた。考えすぎてわからなくなった面もあるので、これからよく考えて自分を見つけていきたい。

B①：周りの目が気にならない女子校はいい。ただもし自分が男子だったら行きたかった学校があるので、やはり選びたくても選べないというのはよくないかもしれない。

D①：女子校で学んでいて、短所も含めて長所をたくさん見つけられてよかった。

D②：自分の好きなことを気兼ねなくできるのが別学のいいところだと再確認した。

B②：共学(中学)では生徒会に入っているにも素が出せなかつたりしたので、別学でそれができるのはいい。女子校という選択肢は必要。ただし女子校に入るのは、異性からの逃げがあってはならない。

C②：別学の長所は、同性の中で自分に素直になれ、自分を伸ばせること。短所は、社会を知ることが

できず、人間関係が狭くなくなること。別学も共学もそれぞれの利点があるので必要。そこから何が得られてどう活かせるは個人の問題。

A②：別学で中学から作法をが、将来に役立つことなのでよかった。また、別学だからこそおしゃべりができて明るくなれたと思う。

司会：では、今私たちは別学で学んでいるので、短所の克服と長所の発展について意見を。

A①：別学は自分を変えられる。素を出して明るくなれたのも別学だから。普段おとなしかったり遠かったりする人たちに話しかけていくようにする。

司会：女子校だからできる行事も発展させていきたい。

A②：「女らしさ」がなくなり行儀が悪くなる欠点をどうするか。

A①：女だからこそ持っている柔らかい感じを失うのはよくない。基本的なことは忘れないようにしたい。

司会：異性の気持ちがわからないので将来うまくやれるか不安という声もあるが、塾等で男子との接点はあると思う。

A②：ボランティア活動等校外で男子と接することはあるから、校外にも目を向けるとよい。

司会：これから、意識して頑張っていきましょう。きょうはありがとうございました。

評 価

1 生徒自身の感想

記録・感想記入用紙に書かれた生徒の感想は以下の通りである。

◎ ディベートについて

A①：それぞれの意見がしっかり聞いてよかったです。なぜ別学にきたのかというのがまたしっかりと考えさせられたと思いました。

A②：自分が今まで絶対だと思っていた「女子校」というものが突然正体を失ってしまったような気持ちになりました。自分の学校で学んでいることは、女子校だからこそ学べることではなくて、進学校だったからこそ学べていることなのだと感じました。けれど、同性だけの中で、気ラクにリーダーシップを築けるという意見はとてもよいと思いました。

D①：ディベートをやったのは初めてだったので、とても緊張した。こんなに密度の濃い30分間を過ごしたのは久しぶりで、とても楽しかった。色んな人の意見が聞いて、「こういう考え方もあるのか」と視野が広がった。

D②：すごく身近なテーマで考えやすかったので、とても意見が解釈しやすく良かったです。

C①：この学校でこういう機会を頂くことが出来てうれしかったです。私は肯定派だったのですが、自分たちの中でも、最初はなかなかまとめられなかったり、意見を、遠慮していえなかったりしたけど、途中からはしっかりといえるようになって、自分なりにだけど、話をまとめら

れて、みんなとじっくり話し合えて良かったです。ありがとうございました!!

C②：どちらの意見にも納得できることもあるので、やはりどちらもあるべきかなと思った。

B①：時間が結構難しかった。質問や回答をその場で答えることができず、作戦タイムには発言はできるが、ディベート中だと発言ができなかった。もっと時間に余裕があればよいと思う。

B②：話し合っている間に自己暗示にかかり、本音では否定派(=別学必要)だったのに、いつの間にか肯定派になりました。女子校について真っ正面から考える機会は今までなかったので、たくさんの意見が聞けてすっきりしました。

◎ ディスカッションについて

〈感想〉

A①：みんな意見がきけて本当によかった!! こういう考え方があるんだと発見できてうれしかったです♪ みんなとまた話してみたいと思いました!!

A②：自分の住んでいる環境をもう1度見直すことができよかったです。異性とも意見交換を積極的に行っていくのが大切だと思いました。

D①：今までは共学が良いと思っていたけど、別学があってもいいんだなと思った。

長所：素が出せる。女子高ならではの作法→のぼす

短所：人間関係が狭くなる、社会に出た時に適応できるか=校外にも目を向けて

D②：私は今回ディスカッションをやってみて、他校と自分の学校のカリキュラムの違いが知れたことによって、また更に別学の良さが分かれて良かったです。

C①：恋愛について…個人の問題であるので、共学、別学関係なし。

共学○、別学×という議論をにくむべき (by先生) 女子にとっては女子だけの方がメリット④? (by先生)

C②：フランクに喋るので良かった。ちょっと論点はズレてしまったけれど、良かったです。

B①：やはり個人の問題になってしまうこと。共学、別学どちらにも長所はあったことがわかった。

B②：みんな同じような事を感じていると知ってうれしかったです。自分たち自身のことについて考えるのはなかなかできないことだけに貴重な機会でした。

〈あなたの意見〉

A①：やはり、リーダーシップをとれる所が多くなるから別学はいい!

A②：共学、女子校、男子校、3つを選ぶのは個人の自由、その中でどれだけ自分をのばせるか。自分の住む世界にだけ目をおいておくのではなく、校外にも目をむけるべき。

D①：長所と短所は話が尽きないと思った。とりあえず、

長所：何と言っても過ごしやすい 短所：閉鎖的な世界→克服する

D②：私は女子だけの中で自分の力を伸ばせるという長所が女子校はやっぱ必要だと感じました。

C①：これから先生きていく中で、女子高にいたことで得られた事を生かしていけたらいいなあ

思いました。

C②：恋→個人の問題 リーダーシップ→今の経験は生かせる

⇒別学の長所＝リーダーシップを生かせる 短所＝社会を知らない

B①：中学は共学で、そこで生徒会もしていたが、休み時間中はずっと本を読んでいるような人目を気にして自分を出せない生徒だった。別学ではやはり素が出せることが長所、短所としては、社会的に自然でないこと、女子校を選ぶことで逃げにつながることを。

B②：長所…まわりの人に邪魔されずに自分の好きなことができる。

短所…男女で受験できる学校が制限されるのは不満。

◎ 本日の企画について（意見・感想）

A①：自分たちの学校のよさが再確認できたと思いました！ なんかこれからのことも考えることができよかったです。

A②：別学の学校がどんどん減っていく中で、このテーマを考えるのはとても実りのあることだと思います。

D①：今日の会に参加できて本当に良かった。自分の考え方がだいぶ変わったし、視野が広がった。今まで女子校にイマイチ誇りというものを持てなかったが、今回の会を通して少し持てるようになり、本当に良かったと思う。

D②：先生達の意見が聞けたのが良かったのですが、一般公開されていたので、他人の目が気になり、あまり集中できなかったです。

C①：別学の方は、自分から積極的に話し合う機会をもつことが大切なんだということが分かってよかったです。また、このような機会を作ってほしい…というか、むしろ、私が通っている学校でやりたいです!!

C②：良い経験になりました。様々な意見を学べて良かったです。

B①：準備が足りなかったと思いました。また、女子高だけの話しあいだったので、共学については想像するしかなかったことが難点。またディスカッションについては、論点があいまいになることがあった。

B：こんなに自分の意見を主張したのは初めてです。また、自分が話すだけでなく他の人が話すのを聞いて大いに納得したり今まで気付かなかったことに気づいたり、実りの多い話し合いになったと思います。

2 教員・来客の感想

◎ ディベートについて

〈感想〉

・数値的なデータなどを論の根拠として使えると、より強い主張ができたと思います。論が自分た

ちの考えたことをもとにしたものだったので、相手を論破できるパワーに欠けていた感じがしました。しかし、両方とも意見を言おうという意欲や誠意が伝わってきました。

- ・何か統計であったり客観的な根拠があれば、もう少し意見に強さが出たように思う。反対尋問の際は、相手の弱点についてボロを出させなければならないのに、立論を聞き直すだけだった印象がある。もっと、自分たちが調べた中ではこう出たが、その点についてどう思うかなど、相手の論を突き崩すと面白かった。
- ・それぞれ健闘していたが、突っ込みが足りなかった。もう少し事前準備をして理論武装をしておかないと、同じことを言い合うだけになってしまい、議論が深まらない。せつかくの機会なので、その辺を頑張ってもらいたい。

◎ ディスカッションについて

〈感想〉

- ・「リーダーシップを取る」という観点にしばらずに、「いかに自分を表現して個性を発揮できるか」という点で女子校を見たほうが良いのではないかと思いました。リーダーの育成という点で見ないと、女子校の中でも一部の存在に限られる気がします。
- ・ディスカッションでは、みんながのびのびと自分の意見を述べていて、大変よかったですと思います。

〈あなたの意見〉

- ・自分が女子校出身なので、私にとっては女子校が自然であり、居心地のよさを感じます。だからといって、みんなが私と同じ感覚を持つ必要はありません。先生もおっしゃったように、自由に共学・別学を選ぶのが一番かもしれませんね。
- ・別学であるということは、価値観というか、基本的な部分で同じであるため、自分の意見を言いやすいという長所があるが、異性とのおりあい、ゆずりあいのつけ方が分かりづらいと感じた。

◎ 本日の企画について 意見・感想

- ・自分たちがやったディベートより、やさしさの伝わるもので、これも別学ゆえに(?)と感ずてしまいました。大学までずっと共学であったため、別学側の意見は新鮮だった。ないものねだりと言うか、禁止されればされるほど、という風潮もあるのでは？
- ・女子校ならではのテーマで、とても興味深く見せていただきました。外の話し声や音のため、発言者の声が聞き取りづらかったのが残念です。全体的に発言者がかたよっていた気がしましたが、どういう役割になっていたのでしょうか？ お疲れ様でした。今後もこのテーマについて考えが深められると良いですね。
- ・女子校だけではなく、男子校・共学、それぞれの立場を交えると、もう少し議論が深まるのではないかと思いました。憶測で語られていることが多い気がしたので、もう少し裏づけとなるデータを用意してはどうでしょうか。進学校としてよい名前を連ねる学校の教育理念の比較など。
- ・女子校の企画として興味深かったが、共学の人も交えてやらないと公平な議論になりにくいので

はないかと思った。

- ・ディベートで勝ち負けを決めないのはユニークな試みで、これはこれでよかったと思います。ディスカッションでは意見がずいぶん出ていましたが、いきなりディスカッションから入ったのではああは行かなかったと思うので、なかなかいいやり方だと思いました。

3 会員（参加校教員）の反省

翌月研究会を行って反省をした。主な反省点は次の点である。

- ・会場の関係で外から入りにくく、文化祭でやった意味がなかった。
- ・準備期間が夏休みになってしまったために生徒に連絡を取りにくくなった。文化祭より後に行えば、準備ももっとできただろう。
- ・前回も参加した生徒が、今回の方がやりやすかったと言っている。理由は、前からメールを交わしており交流関係を築けていたこと、テーマの内容が現在の自分の環境に直接関わっていたこと、会場が狭くお互いの距離が近かったことが挙げられる。
- ・会場が入りにくい空間だったが、その分、生徒には話しやすかったか。公開と話しやすさをどう両立するか。
- ・文化祭でやっている意味が今一つだったが、予想以上に活発な意見交換会ができた。ディベカッションの形も有効だったのではないか。
- ・高校生にとって普段考えないでいること（別学の問題に限らず）を考えるきっかけになったのではないか。
- ・生徒たちは楽しかった、よかったと言っている。

私自身の最大の反省は、生徒の動きを待ちすぎて、事前の準備が遅れたあげくに、データ収集も共学・男子校への呼びかけもできなくなってしまったことである。来客の指摘通りである。夏休みは中盤で「困っていることがあったら連絡をください」というメールを送るのにとどめ、9月に入ってから仕事の仕事の催促は控えていた。生徒を動かすことの難しさを痛感した次第である。ただ、メールを交換していたおかげであろう、意見交換と相互交流が活発に行われ、参加した生徒の満足度が高いことが一番嬉しいことであった。自分たちがやりたいと言っている生徒もあり、リーダーシップの発展も期待できるそうである。

4 音声言語学習会での講評

3月10日に行われた学習会で今回の試みを報告したところ、次のような指摘をいただいた。

- ・他校との意見交換会をディベカッションで行う試みはよい。
- ・テーマもよいが、このテーマならば男子校・共学校も交えてするべきだ。
- ・ディベートの深まりに欠ける。次回は、論点をしばって明確化させるとよい。

- ・ディスカッションが「短所と長所」でとどまるのはつまらない。それを踏まえて、別学でどう過ごすかを議論すべき。

次年度に向けて

女子教育研究会では、次年度も生徒意見交換会を行うことを決定した。自校で行いと述べていた他校の生徒もいたが、学校の事情もあり、結局本校で行うことになった。上の反省を踏まえ、

- ・生徒たち自身に準備段階から携わらせ、メール交流もさせる（今年度と同じ）。
- ・秋のもう少し遅い時期に行い、準備期間を設ける。文化祭の企画とはしない。
- ・テーマは今回の続きとする。今回の内容を踏まえて、準備を十分にさせる。男子校・共学校にも参加を求める。

という方針を決定した。本校では、執行部の活動にするか否かという問題もあるが、今回参加者中1名が1年生であるため、この生徒を軸に進められればよいと考えている。本校生徒が中心になって進めるにしても、他校参加生徒も、準備や意見交換を通じて、リーダーシップと相互交流能力を育んでいけるように企画・実現していきたい。

注

- 注1 1999年9月結成。現会長永野肇本高校長。詳細は、『女子教育の未来に向けて－研究会7年の歩み－』（2006.3発行）を参照されたい。2003～2005年度に行った意見交換会の記録も掲載している。
- 注2 2003年度より順に「女性は得か損か」「女性のリーダーシップ」「国際協力における高校生の課題－教育そして平和－」。
- 注3 「高齢社会をよくする女性の会」代表・東京家政大学名誉教授・「女性と仕事の未来館」元館長
- 注4 1995年に発足した、音声言語による相互コミュニケーション能力の育成を企図する、大学院から附属幼稚園までの縦断的研究会。現代表内田伸子副学長（総務機構長）。
- 注5 ディベートとフリーディスカッションを合わせた討論の一形式。詳しくは、村松賢一氏「対話能力育成のカリキュラム開発⑩－ディベカッションのすすめ」（明治図書『国語教育』No.587. 2000. 3）を参照されたい。ただし、今回私が行ったのは、花田修一氏が提唱した、ディベートから全体討論に持って行く形式（花田修一『国語科ディベート入門』（明治図書1994）に近い）。
- 注6 記録は、担当生徒の記録を部長がWord文書にしてくれたものを、私自身の記録で修正した。また講評は、記録用紙に書かれたものを私がまとめた。

(資料2)

意見交換会について

日時；9月17日(日) 14:00~15:15 (公開部分)

関係者集合は12:30

場所；お茶の水女子大学附属高等学校 部長室 (予定)

お茶の水女子大学附属高等学校の輝鏡祭のときに行います。一般公開します。

内容；「別学は必要か」

今回、テーマには様々な意見が出ました。「社会での女性のありかた」等。しかし、それら以上に、高校生の今だからこそ、話せる内容にしようということになりました。そこで出たのが“別学”と“共学”です。よって別学は必要かという議論をしよう、別学の良さや悪さを見出そうという話になりました。しかし、別学について話す上で女子校在学の学校だけで話しては、視野が狭くはないだろうか、という問題点が生じたため、「共学の学校も招待しよう」という意見がでました。しかし、共学には名前のおり、男の子も女の子もいます。そこで共学の男の子と女子校の私たちが討論するのでは、お互い何か理解にかけられる点が生じてしまうのではないかと、ということになりました。だからといって共学の学校に「女の子がきてください」ということをいうのも、討論の論点から何かずれてしまいますよね。そのため、今回は「女子校」ではなく「別学」というテーマにし、男子校、共学校、女子校の三種の高校を呼び、この内容について討論しようということになりました。

順序；まず事前に各校「別学は必要ではない」というテーマに「賛成」もしくは「反対」の意見を決めます。(これは村松が連絡をとってできるだけ均等になるよう各校生徒と調整をします。)はじめ30分程度の中に賛成派、反対派が集まってどのような意見を中心に意見をいっていくのか、ということを決めます。そしてその後、ディベートを行います。ディベートは、教科書に載っている方法にそって行います。(30分程度)そして最後に「別学の長所、短所」、「共学の長所、短所」についてディベート内容をふまえた上で話し合いながらまとめていきたいと思えます。

つまり

12:30~13:00 お昼を食べつつ自己紹介

13:00~14:00 賛成派、反対派に分かれて話し合い(役割分担等作戦をたてる)

14:00~14:30 ディベート

14:30~15:15 別学、共学の長所、短所を見出す

時間をそこまで長めにとっていないのは話し合いが間延びしないためです。

延びても15:30までに終わらせたいと思えます。

これに関して何か意見があればお願いします。

なければできるだけ早く、共学校、男子校に声をかけたいので連絡をお願いします。

お茶の水女子大学附属高等学校執行部部長 二年蘭組 村松 郁

メールアドレス(省略)

(資料3)

ディベカッションの流れ

議題「男女別学について」

2006. 9. 17 14:00~15:30 (公開部分)

◎ ディベート 「別学は不要である」 60分+30分+約1分 (進行)

① 準備…A組 (肯定)・B組 (否定) に分かれて相談 (60分程度)

② 立 論 (それぞれの立場を主張する。)

肯定側 3分

否定側 3分

③ 作戦タイム 3分

④ 反対尋問 (相手の立論への質疑応答)

否定側 6分

肯定側 6分

⑤ 作戦タイム 3分

⑥ 最終弁論 (②④を踏まえて自分たちの正当性を述べる)

否定側 3分

肯定側 3分

休 憩 (10分)

◎ ディスカッション 「別学の長所・短所」 50分

ディベートを通して、自由に討論。

討論内容はディベートを通して、議長が考え、皆に提示。

それから発展させ、皆で別学の長所、短所を見つける。

長所を伸ばして短所を克服する方法を考えよう。

そして社会へも発信していこう！！

(資料4)

2006. 9. 17輝鏡祭

意見交換会 (討論会)

14:00~15:30

於: 1階部長室 (正面玄関隣)

本日はご来場いただき、ありがとうございます。

今回、本校自治会執行部は、お茶高輝鏡祭初の試みとして、他校の方と意見交換をする討論会を行うこととなりました。女子教育研究会 (先生方の研究会) 加盟校代表の生徒同士で、「ディベカッション」をします。ディベカッションというのは、まず、ディベートを行います。勝敗決定はせず、ディベートの中身を発展させてディスカッションに移る、というものです。後半のディスカッションでは、ディベート討論者だけでなく、まわりで聞いている皆さんにも参加していただきます。是非ご来場のうえ、たくさんの意見をお願いします。

さて、今回のテーマは「男女別学」です。私たちは今別学である女子校で学んでいますが、別学は時代遅れでもう必要ないものだ、という声も時々聞きます。そこで、ディベートでは「別学は不要である」という論題を掲げ、それに対して、賛成、反対に分かれて討論し、さらに、その後のディスカッションで、男女別学の長所・短所また共学の長所・短所を見出し、明日からの学校生活をよりよいものにしていきたいと思えます。

中身の濃い討論会をつくっていきたいと思えます。

だいたいの時程

14:00~14:30 ディベート 「別学は不要である」

立論⇒質問⇒最終弁論

(今回、勝敗は決めません)

14:40~15:30 ディスカッション 「別学、共学の長所短所を見出す」

ディベート参加校は、共立女子・会津若松ザベリオ学園・静岡県西遠女子学園、お茶の水女子大附属の各高校です。これらの学校は皆女子校なので、ディスカッションでは是非、共学や男子校の皆さんの意見も聞いていきたいと思っております。

議長は、お茶高執行部部長村松郁が務めさせていただきます。

どうぞよろしくをお願いします。

(資料5)

輝鏡祭 執行部企画意見交換会

「別学と共学について」

(記録用にお使いください。帰りにご提出いただくと幸いです)

1 ディベート テーマ:「別学は不要である」是か非か

	A 組 (肯定)	B 組 (否定)
立論	・ ・	・ ・
反対尋問	回答 ←	質問
	質問 →	回答
最終弁論		
講評		
感想		

2 ディスカッション テーマ: 別学の長所・短所

・感想

・あなたの意見

3 本日の企画について ご意見・ご感想をお願いします